

# 意見交換会実施報告書

令和3年 8月24日

赤穂市議会議長 様

総務文教委員会委員長 家入 時治

総務文教委員会は、下記により意見交換会を実施したので報告する。

## 記

開催日時	令和3年 8月19日(木) 19時00分 ~ 20時30分
開催場所	赤穂市役所2階 204・205会議室
意見交換会テーマ	赤穂防災士の会の活動と行政との連携について
出席委員	代表者：家入 時治 釣 昭彦 司会者：榊 悠太 安田 哲 記録者：中谷 行夫 山田 昌弘
相手方団体名 及び参加者数	赤穂防災士の会 7名
主な意見等	<p>1 活動の概要</p> <p>今回、意見交換を行った「赤穂防災士の会」は、地域防災力の向上を担う新しい民間の防災リーダーとして、平成28年4月に設立され、現在20名の会員で主に西播磨地域において防災・減災活動を精力的に行っている。</p> <p>行政との連携により、地域防災力の向上と市民の防災意識の高揚を図ることで、災害から尊い生命財産を守ること目指している。</p> <p>2 意見・要望他</p> <p>①まちづくり連絡協議会、連合自治会長会などで赤穂防災士の会の紹介をしていただきたい。</p> <p>②危機管理課と情報の共有として、防災・減災に関する県からの資料を提供していただきたい。</p> <p>③県からのスキルアップ研修などの案内が、赤穂市在住の防災士には届いていない。近隣の市町と同様に案内をしていただきたい。</p>

④危機管理課、消防本部、福祉、社協などそれぞれには関りがあるが、連携がなく縦割りのように思う。一同が共通理解できる連絡会などを設けていただきたい。

⑤小中高の防災教育に関われるようになったが、幼時からの防災教育が大切なので、幼・保・児童館、療育などにも関わらせいただきたい。

⑥避難所開設時の防災士の役割、立ち位置を明確化していただきたい。

⑦市職員と共通認識を持つために、避難所運営ゲーム「HUG(ハグ)」研修など一緒に学ぶ場を設けていただきたい。避難所開設時に必要な対応のイメージがわかることで、混乱が避けられる。

⑧民生委員での話の中で、防災行政無線が聞き取りにくいので、聞き取れるようにしていただきたい。

また、消防と一緒にひとり暮らしの家庭の家庭防災診断を毎年実施しており、煙感知器が未設置の場合は無償で取り付けているが、震災時の電気火災を防ぐため、感震ブレーカーを設置していただきたい。

⑨自治会で自衛防災隊組織があるが、時間帯などによっては実際に機能するのかなど、自治会長もよくわからない部分もあると思うので、地域防災リーダーなどに地域づくりの意見をいただける体制が必要である。また、個別支援計画などの作成に専門の力を貸せるようにしていただきたい。

⑩行政から防災教育を進めていただきたい。

⑪災害時に、災害時要援護者の状況把握など民生委員だけでは限りがあるため、こころ通わせられる近隣で守れる、自助・共助を充実させるための行事の支援を行政にいただきたい。

⑫赤穂防災士の会のスキルを活かし、災害時に役に立てるよう日頃の防災・減災活動について、行政にタイアップしていただきたい。

⑬西播磨地域で活動する各地区の防災士の会が維持・存続でき、連携できる体制づくりに行政の支援をいただきたい。

⑭ボランティア活動にも限りがあり、備品・教材の購入、助成金などの支援をいただきたい。

⑮現在、赤穂市防災センターに当会が所有している備品、資機材の保管場所を提供していただいているが、手狭のため代わる保管場所を確保していただきたい。

	<p>⑩避難所にプライバシー保護のためテントと仕切り、段ボールベット、エアベットなどの備えを拡充していただきたい。</p> <p>以上、行政と情報の共有、連携し、支援等をいただき、赤穂防災士の会を活用し、市民の安全・安心なまちづくりを推し進めていただきたい。</p>
<p>委員会のコメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の避難所開設に防災士の人数が 10 人、20 人では足りないのではないか。増やす必要がある。</li> <li>・熊本、長崎の避難所開設で進んでいるところは、段ボールベットを使っているし、プライバシー保護やコロナ感染予防に仕切りが必要である。</li> <li>・防災士の立ち位置がはっきりしていないので、消防団のように組織として必要であり、その中で位置づけが必要である。また、知識がある防災士を上手く活用できるようにしたい。</li> <li>・ひょうご防災リーダー講座受講募集を見ると、一日で募集枠が埋まってしまうような人気の講座で、防災リーダーの称号を授与されたあと、防災士機構から居住地の県民局、市町に修了者名簿を送付し、「活動機会を提供します」となっているので当然、市と防災士の会が連携しているはずだが、県と市の関係、連携ができていないと思う。</li> </ul> <p>今年の5月に国の防災基本計画が修正されて、防災ボランティアと自治体住民、NPOとの連携と共同の促進が謳われているので、赤穂市も意識も持って取り組んでいく必要があると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議員も避難所運営ゲーム「HUG」などの防災研修を受けることにより、避難所開設・防災意識を高めることができるため、防災研修の機会を設けたい。</li> <li>・防災行政無線が聞き取れない場合、電話 43-7070 にかけると放送内容が自動的に配信される。</li> </ul> <p>放送が二重に聞こえて、聞こえにくいことについては時差式に放送している。また、放送がうるさいとの苦情があるため、普段は音量を絞っており、非常時には必ず最大の音量で流すことになっている。改良にはかなりの費用も必要なため理解をいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤穂防災士の会が、どこの管轄で一つの組織としてみてもらえるのか、総務文教委員会として、今後、十分に対応していかなければならない。費用面の補助にも繋がっていくことになる。</li> </ul>

・赤穂防災士の会の貴重な意見を聞き、位置づけ及び組織を明確にすることが必要であり、また、県、市との連携ができる体制づくりが必要であると考えます。

委員会の中で十分に整理精査し、重要と判断した事項は今後、議会としてどうすべきかを議員全員で受けとめて議論を行い、市長側に議会の意思として伝えていく。